

子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Association of sleep quality with temperament among one-month-old infants in The Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

生後 1 ヶ月児の睡眠と気質との関連:子どもの健康と環境に関する全国調査

ユニットセンター(UC)等名:福岡ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:九州大学サブユニットセンター

発表雑誌名:PLoS One

年: 2022 DOI:10.1371/journal.pone.0274610

筆頭著者名:菊地 君与

所属 UC 名:福岡ユニットセンター

目的:

本研究では、生後 1 ヶ月の乳児の睡眠と気質との関連を検討することを目的とした。

方法:

エコチル調査のデータを使用し横断研究を行った。登録された妊娠のうち、調査への2回目以降の参加、多児、先天性形態異常児、早産児は除外した。生後1ヶ月時の保護者の回答に基づき、生まれた子どもの睡眠を説明変数(「夜間に5回以上起きる」「夜間より昼間の睡眠時間の方が長い」)、気質を結果変数(「不機嫌」「頻繁な泣き」「激しい泣き」としてカイニ乗検定及びロジスティック回帰分析を行った。

結果:

調査参加者のうち、80,970 名の出生児を解析対象とした。子どもの睡眠について、夜間より昼間の睡眠時間が長いことは、頻繁な泣き(調整後オッズ比(AOR):1.05、95%CI:1.00-1.10)と、激しい泣き(AOR:1.19、95%CI:1.13-1.25)に関連がみられた。夜間より昼間の睡眠時間が長いことと頻繁に泣くこととの関連は、男児より女児においてより顕著であった(AOR:1.11、95%CI:1.04-1.20)。

考察(研究の限界を含める):

本研究の結果から、乳児の昼間の睡眠時間が長いことは、泣きの気質に関連することが示唆された。この結果は、これまでの同様の研究結果を支持するものであった。また、本研究では、昼間の睡眠時間が長いことと気質との関連において性差が認められた。過去の研究において、睡眠の長さや環境要因に対する適応性に性差があることは示唆されているが、本研究で見られた関連性を明らかにするためにも、今後さらなる研究が必要である。本研究の限界は、乳児の睡眠と気質に関する情報が保護者の申告に基づくものであることと、横断研究であるため因果関係が特定できないことである。

結論:

本研究では、生後 1 ヶ月時における乳児の睡眠と泣きに関する気質には関連がみられた。発達上の問題を特定・予防するために、乳児の睡眠障害に早期に注目することが重要である可能性が示唆された。